

○「茶産地の課題と後継者」

京都府和束町 中和束地区連絡会議(平成30年度第1回)

担い手への
農地利用の
集積・集約化

遊休農地の
発生防止・
解消

新規参入の
促進

その他
(農業委員会の
体制強化等)

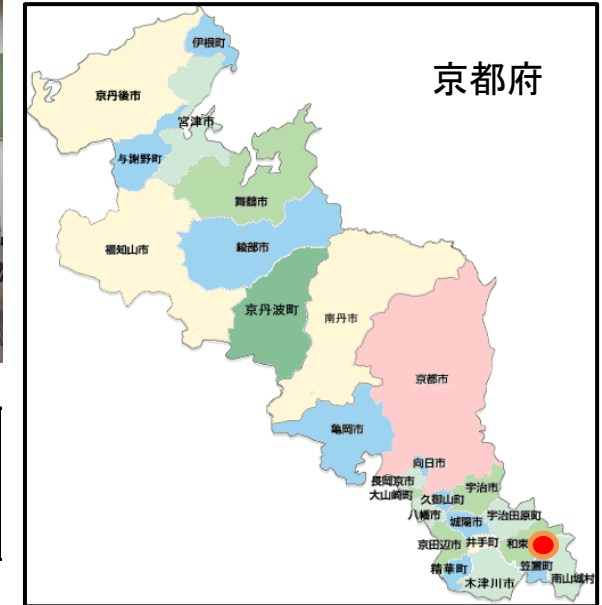
1 活動の日時や時期、場所等

- 日時(時期): 平成30年11月9日(金) 14:30~16:30
- 場 所: 和束町商工会館 研修室
- 出席者: 委員6人、委員以外2人、事務局2人
- 報告者: 森嶋 徹 農業会議現地推進役



2 地区の特徴、状況、課題

- 急傾斜地に広がる緑茶栽培を中心とした中山間地域農業。
- 大規模な緑茶を栽培する中核的な農家と小規模に茶と水稲を栽培する兼業農家が混在。
- 所得の減少と後継者不足に悩んでいる。



3 課題解決に向けた活動(農地利用の最適化推進の取組と工夫)

- 有害鳥獣で困惑。農家が減り、急峻で狭隘な農道の管理等の負担が増加。農地の利用集積は進んでいない。
- 煎茶の産地であったが、相場の変動により碾茶の産地へと変わりつつある。これから先が読めない。
- 新規就農者には国府の支援があるが、農家の後継者には支援策がなく減少する一方だ。
- 補助事業は、大きな農家利用できるが、小さな農家には、対象とならず支援を受けられない。
- 規模拡大を図るには、人手(雇用)が必要であるが、繁忙期と閑散期の差があり難しい。
- 茶を極めていくか、茶以外のものを研究するか。獣害対策と農地利用等を総合的に考えて行く必要がある。
- 茶は所得確保が必要。水稲(水田)は、地域や農地を守っていくために必要。どちらも必要 ……

4 活動結果

- 情報・意見交換 **2** 時間
- 担い手への集積 **a** 増加
- 遊休農地面積 **a** 解消
- 新規就農者 **人** 支援